2023年度　日本工学院専門学校

放送芸術科

映像リテラシーＡ１

対象	１年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	笹本　篤			実務経験	有	職種	映像制作全般				

担当教員紹介

放送業界で編集・後処理業務に従事していた
IMAGICAほか

授業概要

この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。
具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、４K放送、５Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの
撮影現場に必要な、色の知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。前期では主にテレビ放送技術・知識を学び、
後期で行う現代の映像制作環境学習への橋渡しとなるように進める。

到達目標

この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）が
どのように現在の形になったのかを知ることで、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを
理解することが目標とする。放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか 自身がどういった分野に
興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。

授業方法

この授業では、ZOOMによるオンライン授業形態で行う
教員は予め用意した授業スライドに書き込みながら説明し、学生はノートをとる。
書くことで脳を働かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。
「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。

成績評価方法

試験　　80%　期末試験の点数により評価
課題　　20%　各授業後に行われるアンケートフォームを利用した課題
平常点（積極的な授業参加の姿勢）を加点評価する

履修上の注意

ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。
現在の放送（映像）業界のリアルタイムな状況も考慮して授業を展開するため、自身でも映像視聴環境を今一度見つめ直し、
身近な物事として考えてほしい。
理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。

回数	授業計画
第1回	５Gとは何かを理解し、　映像業界における５Gの影響を考察する
第2回	テレビ放送の歴史①/ テレビ開発からテレビ放送までの流れ　時代背景を知り、テレビ放送当時の人の価値観を考察する
第3回	テレビ放送の歴史②/ テレビ放送から地デジ化までの流れ　時代背景を知り、放送の変革時を考察する
第4回	テレビ放送の歴史③/ 地デジ化から2021年までの流れ　放送にまつわる成功と失敗　映像業界における放送の役割を考察する
第5回	テレビの内部構造　テレビの種類と特徴を知り、TVモニターの構造を理解する

2023年度　日本工学院専門学校	
放送芸術科	
映像リテラシーＡ１	
第6回	テレビ放送に関する、技術的なワード解説と技術成立の経緯理解①/インターレース・プログレッシブ、フレームレート
第7回	テレビ放送に関する、技術的なワード解説と技術成立の経緯理解②/タイムコード、DF、NDF
第8回	映像を作る色①/光の３原色（赤・緑・青）と色の役割を理解する
第9回	映像を作る色②/DIT、カラリストの役割、HDR技術とカラーグレーディングの知識習得
第10回	映像の美しさを決める５つの要素/解像度・フレームレート・ビットレート・色域・輝度の５つの要素解説
第11回	カメラに関する用語解説/ホワイトバランス、色温度、画面サイズ、NDフィルタなどの用語知識を理解する
第12回	映像・画像データの取り扱い/jpg・pngなどの画像データや、mp4・MOVなどの映像データ、コーデックに関する基礎的知識習得
第13回	期末テスト対策授業/前期を振り返り、知識の抜けがないようにおさらいをする
第14回	期末テスト/テストによって理解度を確認する
第15回	期末テスト 振り返り/テストを振り返ることで理解を深め、後期に向けて確実に知識を身につける、全体のまとめ